

価値創造ストーリー | マテリアリティ

当社グループは、2015年3月に国際社会が持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みづくりである「国連グローバル・コンパクト」に署名し、SDGsの達成を目指しています。

2020年12月には、SDGs対応のために当社グループが優先的に取り組むべき13項目のマテリアリティを特定し、マテリアリティの項目ごとに設定した目標達成に向けた取り組みを推進しています。マテリアリティに対する取り組みは、「なめらかな社会」の実現に向けたロードマップで示し(→P47)、その進捗状況は、組織横断的に構成されたサステナビリティ委員会で定期的に確認し、適宜、取締役会に報告しています。

また、特定したマテリアリティは、NTN企業理念である「新しい技術の創造と新商品の開発を通じて国際社会に貢献する」とも結びついており、マテリアリティに対する取り組みを推進することで、当社グループの持続的な成長と環境・社会的価値の創出を図り、「なめらかな社会」の実現を目指します。



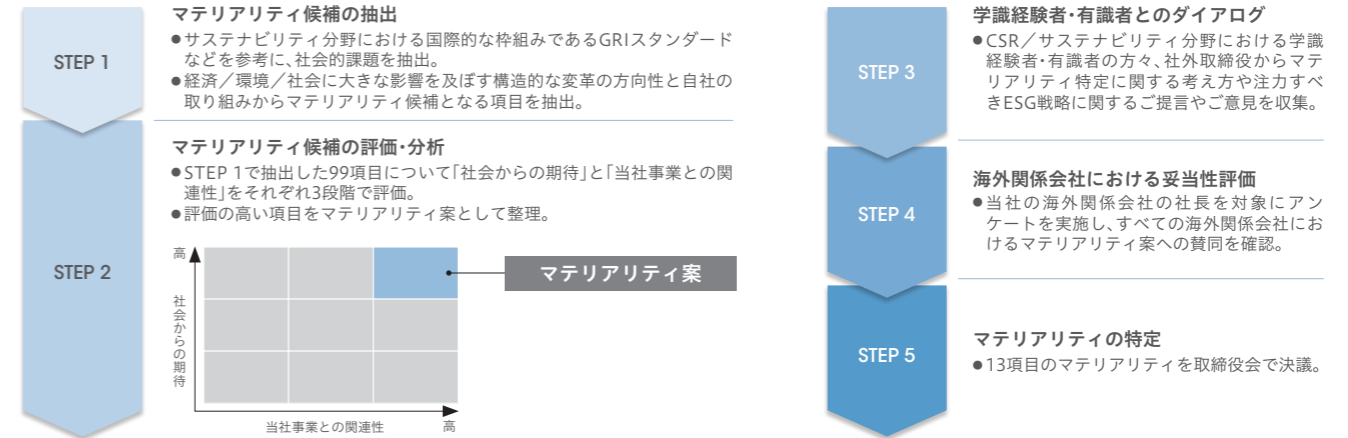
目指す未来に向けた社会課題の解決への貢献

	マテリアリティ	関連するSDGs	目標年度
環境	1 気候変動への対応	13	2030年度 2035年度 2050年度
	2 自然エネルギーを利用した持続可能な社会の実現	7, 13	2023年3月期 2024年3月期 (★)
	3 エネルギーロスの低減	7, 9, 12, 13	2023年3月期 2024年3月期 (★)
社会	4 安全と快適の提供	9, 11	2023年3月期 2024年3月期 (★)

ESG経営を支える基盤

	マテリアリティ	関連するSDGs	目標年度
環境	5 資源循環・汚染防止	12, 14	2023年3月期 2024年3月期 (★)
	6 製品・サービスの信頼性向上 (品質保証・安定供給)	12	継続 2024年3月期 2024年3月期 (★)
社会	7 環境・社会を重視した調達活動	10, 13	継続
	8 労働安全衛生の推進	8	2023年3月期 継続
	9 人権の尊重	10	2023年3月期 継続
	10 人材育成	8	継続
	11 ダイバーシティの推進	5	2024年3月期 2024年12月
ガバナンス	12 コンプライアンスの徹底		継続
	13 ガバナンスの強化		継続

特定プロセス



目標	2023年3月期実績	詳細ページ
●事業活動におけるCO ₂ 排出量の削減(スコープ1,2)→50%削減(2018年度比) ●事業活動におけるCO ₂ 排出量の削減(スコープ1,2)→カーボンニュートラル ●事業活動におけるCO ₂ 排出量の削減(スコープ3)→カーボンニュートラル	スコープ1,2 ●2018年度比22.6%削減 スコープ3 ●行動計画を立案し、推進	→ P53
●風力発電装置の安定稼働に貢献する商品・サービスに関わる開発 →2023年3月期 開発テーマ完了 ●風力発電装置の安定稼働に貢献する商品・サービスに関わる開発 →2024年3月期 開発テーマ完了	●風力発電装置の軸受供給から異常検知、メンテナンスまでをワンストップで提供するサービスの開始など	→ P52
●自動車、産業機械向け商品の低フリクション化、小型・軽量化に関わる開発 →2023年3月期 開発テーマ完了 ●自動車、産業機械向け商品の低フリクション化、小型・軽量化に関わる開発 →2024年3月期 開発テーマ完了	●EV・HEV用高速深溝玉軸受の開発など	→ P50
●ロボット周辺モジュールに関わる開発→2023年3月期 開発テーマ完了 ●減災・防災に向けた独立電源装置の認知度向上と提案活動の実施	●ロータリアクチュエータ式ハンドの開発など ●複数の自治体で、N ³ エヌキューブ採用 (循環式水洗エコトイレ用、バス停待合所用など)	→ P57
●ロボット周辺モジュールに関わる開発→2024年3月期 開発テーマ完了 ●減災・地方活性化に向けた独立電源装置の認知度向上と販売活動の実施	—	—

目標	2023年3月期実績	詳細ページ
●水使用原単位 →4.30m ³ /百万円 (日本) 3.14m ³ /百万円 (海外) ●廃棄物発生原単位 →164kg/百万円 (日本) 279.4kg/百万円 (海外) ●リサイクル率 →97.9% (日本) 97.5% (海外) ●水使用原単位→3.98m ³ /百万円 (グローバル) ●リサイクル率→96.0%以上 (グローバル)	●4.36m ³ /百万円 (日本) 2.83m ³ /百万円 (海外) ●159.7kg/百万円 (日本) 251.0kg/百万円 (海外) ●98.7% (日本) 96.2% (海外)	→ P58
●顧客満足度の高水準維持→「大変良い」「おおむね良い」の割合90%以上 ●品質マネジメントシステム認証 (ISO9001/IATF16949) 取得率100%維持 *製造に関する国内外の連結子会社 (量産開始前の拠点を除く) 対象 ●品質専門教育受講者数→100名以上 ●国内基幹システム再構築の進捗度 生産領域→全拠点に導入完了 (販売・物流、財務会計、人事・給与、技術領域は、2022年3月期で導入済み) ●情報セキュリティ緊急対応体制 (NTN-CSIRT) 活動開始	●「大変良い」「おおむね良い」の割合88% ●100%認証維持 ●145名 ●生産7拠点で導入完了 →2024年3月期中の導入完了に向け、計画通り進行中	→ P60
●サプライヤーCSRアンケートの継続実施と結果達成度の維持・向上	●結果達成度87%	→ P61
●労働安全衛生マネジメントシステム運用継続 →国内製造関係会社6社にてGSCの評価取得完了 ●健康経営優良法人 (大規模法人部門)「ホワイト500」認定維持 ●製造拠点を対象としたリスク・サーベイの年間計画の達成度→100%	●2社でGCS評価取得完了 →未達成の4社は2024年3月期中の評価取得完了に向け、取り組みを継続中 ●3年連続で認定維持 ●達成度100%	→ P66
●海外関係会社のアンケート結果の分析・評価完了 ●国内で働く外国人労働者の実態調査 (モニタリング) ●「NTN Next Leader Program」の受講者数→50名 ●ESG社内表彰制度「NTN PROUD AWARD」の開催	●分析・評価完了 ●外国人労働者数の集計 (毎月) を開始 ●59名 ●2023年6月に第1回グローバル大会を開催	→ P67
●女性管理職比率→NTN単体9% ●男性育児休業取得率→30%	●NTN単体4.4% ●37.2%	→ P65
●コンプライアンス委員会の年間開催回数→2回 ●コンプライアンス意識調査におけるヘルプラインの認知度→85%以上 *2024年3月期は目標値を90%以上に引き上げ、取り組みを推進	●2回 ●88.4%	→ P77
●コーポレート・ガバナンスの充実	●コーポレート・ガバナンスの充実	→ P71

*目標年度に「継続」と記載のものは、毎年、継続して達成を目指していく目標で、(★)は新たに設定した目標です。